

北九州まちづくり応援団株式会社

I 法人の概要 (令和2年4月1日現在)

- 所在地 北九州市小倉北区船場町2-10
- 設立年月日 平成17年6月27日
- 代表者 代表取締役社長 白川 敬 (令和2年6月16日就任)
- 資本金 32,000千円
- 北九州市の出資金 1,000千円 (出資の割合 3.125%)
- 役員員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	7人	0人	0人	7人
常 勤	1人	0人	0人	1人
非常勤	6人	0人	0人	6人
職 員	37人	0人	0人	37人

II 令和元年度事業実績

第15期(令和元年度)は、①指定管理事業、②共通駐車券事業、③賑わいイベント事務局事業に絞り、北九州市の重要な観光資源である小倉城を中心とした小倉都心において、行政や周辺の商店街などと連携し、賑わいづくり・活性化に取り組んだ。

指定管理事業(小倉城・小倉城庭園)は今期より5社の共同事業体で運営しており、小倉城については、28年ぶりの内部工事が終わり平成31年3月30日にオープニングを迎え、リニューアル効果で4月5月は対前々年5割増しの入場者を迎え入れ、上々の滑り出しであり、その後は日韓関係の影響もあり入城者は伸び悩んだものの、2月まで前々年を超える集客を維持することができた。新型コロナの影響は1月下旬から顕われ、インバウンドは激減していき、2月下旬からは臨時休館状態が続いており、年間入城者数では22.7万人にとどまった。今期から新たに運営を担うこととなった「しろテラス」については、4月5月のリニューアル効果、11月の竹あかりや平成中村座、更に11月以降に売り場面積を4倍にしたことなどの効果により、売店の売上は伸張が続き、年間目標を達成した。小倉城庭園については、ほぼ小倉城と同様の傾向だが、もともと韓国からの観光客が多い傾向であったため、日韓問題の影響はより顕著にあらわれた。年間入場者数は7.5万人と新型コロナの影響も重なり、目標8.6万人には届かなかった。指定管理料の約3千万円減額、しろテラス立上げ投資などで苦しいスタートとなり、収益向上に努めてきたが指定管理事業の損益は、大幅な赤字となった。

本部関連事業において「共通駐車券事業」は新規契約先開拓を積極的に進め、僅かながらも営業収入向上につながり、「賑わいイベント事業」については、小倉イルミネーションの点灯式で前売券販売は目標達成できなかったが、冬の風物詩として、小倉中心市街地の賑わいづくりに貢献できた。

以上の事業活動の結果、当社の当年度収入は、2億4,704万円と対予算で約1,000万円の未達、全社経常利益では対予算で1,294万円の未達、2,944万円の赤字となった。指定管理事業において、指定管理料の減額や新規投資が重なった上に、日韓問題、更には新型コロナ感染拡大防止のための臨時休館の影響が重なり、赤字決算となった。

Ⅲ 令和元年度決算

1 貸借対照表

令和2年3月31日現在 (単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【 流 動 資 産 】	【33,697,551】	【 流 動 負 債 】	【20,962,828】
現 金	3,600,248	未 払 費 用	19,462,710
預 金	12,929,986	未 払 法 人 税 等	208,500
商 品	3,317,531	預 り 金	1,167,848
貯 蔵 品	547,824	仮 受 金	4,670
仮 払 金	2,461	未 払 消 費 税	119,100
未 収 入 金	13,270,779	【 固 定 負 債 】	【2,920,000】
立 替 金	28,722	長 期 借 入 金	2,720,000
【 固 定 資 産 】	【3,839,543】	預 り 敷 金	200,000
(有形固定資産)	(3,673,543)	負 債 合 計	23,882,828
建 物 附 属 設 備	3,673,543		
(投資その他の資産)	(166,000)	純 資 産 の 部	
投 資 有 価 証 券	60,000	【 株 主 資 本 】	【13,654,266】
出 資 金	10,000	資 本 金	32,000,000
敷 金	96,000	(利益剰余金)	(▲18,345,734)
		その他利益剰余金	▲18,345,734
		繰越利益剰余金	▲18,345,734
		純 資 産 合 計	13,654,266
資 産 合 計	37,537,094	負 債 ・ 純 資 産 合 計	37,537,094

2 損益計算書

自 平成31年4月 1日

至 令和 2年3月31日 (単位：円)

科 目		金 額	
【 売 上 高 】			
事業収入金		53,846,841	
小倉城関連売上		193,190,883	247,037,724
【 売 上 原 価 】			
小倉城関連売上原価		24,630,465	
仕 入 高		47,902,136	
＊ ＊ 合 計 ＊ ＊		72,532,601	
期 末 棚 卸 高		▲3,317,531	69,215,070
	売 上 総 利 益 金 額		177,822,654
【販売費及び一般管理費】			216,263,586
	営 業 損 失 金 額		▲38,440,932
【 営 業 外 収 益 】			
受 取 利 息		459	
雑 収 入		9,254,638	9,255,097
【 営 業 外 費 用 】			
支 払 利 息 割 引 料		44,312	
雑 損 失		213,778	258,090
	経 常 利 益 金 額		▲29,443,925
	税 引 前 当 期 純 利 益 金 額		▲29,443,925
	法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		208,500
	当 期 純 利 益 金 額		▲29,652,425

IV 令和2年度事業計画

令和2年度は、前年度に引き続き ①指定管理事業、②共通駐車券事業、③賑わいイベント事務局事業に絞り、北九州市の重要な観光資源である小倉城を中心とした小倉都心部において、行政や周辺の商店街などと連携し、賑わいづくり・活性化に取り組む。

指定管理事業により、小倉城及び小倉城庭園の3年間運営管理の2年目として、当初計画では1年目の初期投資の効果を期待し、小倉城の入城者数を25万人、小倉城庭園の入館者数9.4万人を目標として設定していたが、年初から新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が続く中、目標を大きく見直さざるを得ない状況となり、市の支援を要望するとともに、経費削減に努め、できる限り赤字にならないよう取り組んでいく。

「共通駐車券事業」については、引き続き、新規活用店舗や利用駐車場の拡充に努めるとともに、より効果的な事業PRを行い、営業収入5,000万円達成に努めていく。

「賑わいイベント事務局事業」については、新型コロナの感染状況も見ながらとなるが、冬の小倉中心街を彩る大事なイベントでもある「小倉イルミネーション2020」を実行委員会事務局として進め、300万円の収入を確保する。

事業全体として、第16期の収入合計は2億円を見込み、経常利益については、ほぼ土ゼロの見通しとなっている。

V 役員名簿

令和2年6月16日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役会長	利島康司	北九州商工会議所 会頭
代表取締役社長	白川敬	北九州商工会議所 議員
取締役	二郎丸聡夫	北九州商工会議所 理事・事務局長
取締役	小松良明	小倉中央商業連合会 理事長
取締役	北里勝利	北九州市 小倉北区長
取締役	原賀一博	北九州まちづくり応援団(株)
監査役	安田堅太郎	西鉄バス北九州(株) 代表取締役社長